

Ⅱ 国語の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

	さいたま市基礎学力定着状況等調査	さいたま市学習状況調査
1 「設問のねらいと評価」について	達成目標 小問ごとの達成目標を示した。 評価の観点 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の4観点について該当するものを○印で示した。	大問・領域 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域1事項について示した。 設問のねらい 小問ごとの設問のねらいを示した。 評価 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の4観点について該当するものを○印で示した。
2 「調査結果の概要と分析」について	「全体（教科全般）」「大問別」を示した。 ◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント	「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続してみられる課題」を示した。 ◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント
3 「調査結果と指導のポイント」について	・設問・正答・結果・誤答例等と、その考察（分析・指導のポイント）について示した。 （※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻出のもの）	・大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に示した。 ※分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。 （※誤答例は、抽出児童生徒の主な誤答について頻出のもの）

i 小学校第3学年【さいたま市基礎学力定着状況等調査】

1 設問のねらいと評価

評価の観点 : 1…書く能力 2…読む能力 3…言語についての知識・理解・技能

大問	小問		達成目標(小学校1・2年生)		評価の観点		
					1	2	3
1	問一	(1)	漢字を読んだり、書いたりすることができるようにしましょう。	訓読み	○		○
		(2)		熟字訓	○		○
		(3)		音読み	○		○
	問二	(1)	姿勢や用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながらていねいに書くことができるようにしましょう。	訓	○		○
		(2)		送り仮名	○		○
		(3)		音＋音	○		○
	問三	(1)	のぼす音（長音）、小さい「や、ゆ、よ」（拗音）、小さい「っ」（促音）、「ん」（撥音）や「は」「へ」「を」を正しく使えるようにしましょう。		○		○
		(2)			○		○
	問四		「いつ、だれが（何が）、何をした（どんなだ）」が分かる文を書くことができるようにしましょう。		○		○
	問五	(1)	ひらがなとかたかなを読んだり書いたりし、文の中で使うことができるようにしましょう。				○
		(2)					○
2	問一	順序を考えながら、つながりのある文章を書くことができるようにしましょう。	第1学年及び第2学年 言語活動例エ （紹介文）	○			
	問二	原稿用紙の使い方を理解し、正しく使うことができるようにしましょう。		○			
3	問い	順序を考えながら、内容を読むことができるようにしましょう。	文学的文章		○		

2 調査結果の概要と分析

◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント

全 体	◇教科全体の平均正答率は76.7%である。 ◇評価の観点別の正答率は、「書く能力」が81.1%、「読む能力」が83.6%、「言語についての知識・理解・技能」が82.5%であり、おおむねできている。「文字のていねいさ」は59.8%である。
大 問 別	◇問一の正答率は、(1)が92.7%、(2)が93.3%、(3)が96.7%であり、漢字を読むことについては、相当数の児童ができています。 ◇問二の正答率は、(1)が75.7%、(2)が70.4%、(3)が85.1%であり、漢字を書くことについては、さらに指導を充実し、確実な定着を図ることが大切である。 ◆「文字の形に注意しながらていねいに書く」ことができています児童は59.8%であり、課題がみられる。 ○日頃から、文字の概形をとらえ、始筆から終筆までを確実に書き、その積み重ねで文字の形を整えていくことができるよう指導することが大切である。 ◇問三の正答率は、(1)が93.2%、(2)が91.1%であり、助詞の「は」、「へ」を文中で正しく使うことについては、おおむねできている。 ◆問四の正答率は59.8%であり、主語と述語の照応関係をとらえることに課題がみられる。 ○文章を読んだり表現したりするときに主語と述語を意識し、それらが照応していることをとらえ、文の意味を明確に伝えられるよう指導することが大切である。 ◇問五の正答率は、(1)が73.9%、(2)が75.3%であり、平仮名や片仮名の読み書きや使うことについては、さらに指導を充実し、確実な定着を図ることが大切である。
	◆問一の正答率は60.0%であり、順序を考えながら、つながりのある文章を書くことに課題がみられる。 ○事柄の順序に沿いながら、文章の始めから終わりまでを、内容のまとまりごとに、いくつかに分けて配置していくことを意識できるよう指導することが大切である。 ◇問二の正答率は74.2%であり、原稿用紙の使い方を理解し、正しく使うことについては、さらに指導を充実し、確実な定着を図ることが大切である。
	◇正答率は83.6%であり、場面の様子をとらえることはおおむねできている。

3 調査結果と指導のポイント

大問	小問		問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率
1	問一	(1)	はたけで 麦 をそだてる。	むぎ			92.7	0.5
		(2)	雨戸 をあける。	あまど	あめと		93.3	0.9
		(3)	大きな 画用紙 に絵をかく。	がようし			96.7	0.8
	問二	(1)	朝おきて かお をあらう。	顔	頭		75.7	2.3
		(2)	とおい お店に行く。	遠			70.4	1.9
		(3)	ある日、しょうねん がやってきました。	少年	小年		85.1	0.8
	問三		文字の形に注意して書く。				59.8	
		(1)	ぼく□、うち□であおぎます。	は わ	わ は		93.2	0.4
		(2)	学校□、□のぐを持って行く。	へ え	え え		91.1	0.6
	問四		ア朝の会で、イ先生が ウ手紙を エくばった。	主語：イ 述語：エ	主語：ア 述語：ア		59.8	1.8
	問五	(1)	かきごうり	かき ごおり			73.9	1.3
		(2)	オレンジジュウス	オレンジ ジュース			75.3	1.3
2	問一		友達をしょうかいする文章を書くとき、 順序について気をつけることとして、もっ ともよいものをつぎの1～4から一つえら んで、□に記号で書きましょう。		2		60.0	2.5
			1 しょうかいする友達がいつもがんばっ ていることについて、思いついたことか ら書くようにする。 2 しょうかいする友達の一日を教えるた めに、友達がしたことをすべて時間の順 番に書くようにする。 3 だれをしょうかいするかわかるように、 しょうかいする友達の名前を「はじめ」 に書くようにする。 4 しょうかいする友達が学校に来るまで の道順について、よく知っている場所だ け書くようにする。 正答：3					

(単位：%)

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率
2	問二	つぎの文章は、たろうさんが書いた、友達をしょうかいする文章の書き出しの部分です。あなたは、この文章を読んで、教科書で勉強した原稿用紙のつかい方に気をつけて、たろうさんにアドバイスをします。アドバイスとしてもっともよいものをあとの1～4から一つえらんで、□に記号で書きましょう。 1 文章のはじまりは、一字下げて書きはじめます。 2 人の話した言葉には、かぎ（「」）をつけます。 3 文のおわりに、丸（。）をつけます。 4 会話は、行をかえて書きます。 正答：2		1		74.2	2.6
3		つぎの文章は、「スイミー」の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。 スイミーは、この場面で、いろいろなものを見ました。スイミーは、何を見ましたか。つぎのア～カをスイミーが見た順番にならべかえて、□に記号で書きましょう。 正答： 一番目：カ 二番目：イ 三番目：オ 四番目：ウ 五番目：エ 六番目：ア ア いそぎんちやく イ いせえび ウ こんぶやわかめ エ うなぎ オ 魚たち カ くらげ				83.6	1.7

(単位：%)

問四

問四 つぎの【れい】のように、あとの文の主語と述語をえらんで、それぞれに記号で書きましょう。

ア イ ウ エ

朝の会で、先生が手紙をくばった。

【れい】 わたしがボールをなげる。 主語：ア 述語：ウ

主語：

述語：

分析

例題と同じ要領で主語と述語を見つけることができる易しい文であるが、正答率は59.8%と低くなっている。主語と述語の関係を正確に理解できていないため、文が少し長くなっただけで、主語と述語を見つけることができなくなってしまうと思われる。

指導のポイント

1 主語と述語の定義を教科書で学習した後に、基礎学力定着プログラムのワークシートを用いて、十分な反復練習を行う

言葉のきまりに関する事項は、算数の計算問題と同様に、授業の中で学習内容を理解することができても、様々な例文を用いてくり返し反復練習を行わないと、身に付けた知識が定着しない。本設問に関連して、基礎学力定着プログラムでは以下のように取り上げているので、教科書の例文に追加する形で取り組ませたり、単元の終わりの小テストとして取り組ませるなど、十分に活用されたい。

★【じっくりしつかりくり返し】の四ページを参考にしてください。

★れい

いつ…なつやすみの さいこに
どこで…ふくしまの おばあちゃんの いえで
だれが…わたしと おとうさんが
なにをした…うみにいって およいだ。そして、さかなを
たくさん みた。

なにをした

だれが

どこで

いつ

かきましよう。

「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」のか、わかりやすく

小学校二年生「書く」ワークシート③

なまえ

小1・2国—3・5—

2 短い文章を作文し、提出させる機会を数多く設定し、必ず教師が添削を行う

「いつ、だれが（なにが）、なにをした（どんなだ）」が分かる文を、いくつ書けるか数を競うなど、楽しみながら活動させる授業を行う。また、「さいたま市国語力向上プログラム」の趣旨に沿って、学習の振り返りや行事の振り返りなど、短い文章を書かせる機会を意識的に数多く設定し、主語と述語の関係等が正しくない文については必ず添削して返すことが大切である。

ii 小学校第4学年【さいたま市基礎学力定着状況等調査】

1 設問のねらいと評価

評価の観点 : 1…書く能力 2…読む能力 3…言語についての知識・理解・技能

大問	小問		達成目標(小学校3・4年生)		評価の観点			
					1	2	3	
1	問一	(1)	漢字を読んだり、書いたりすることができるようにしましょう。	訓読み			○	
		(2)		熟字訓			○	
		(3)		音読み			○	
	問二	(1)		訓			○	
		(2)		送り仮名			○	
		(3)		音＋音			○	
	問三	(1)		ローマ字を読んだり書いたりすることができるようにしましょう。	拗音、撥音の読み			○
		(2)			促音、長音の読み			○
		(3)			ローマ字の書き			○
	問四	相手に伝えたいことがよく分かるように、手紙を書くことができるようにしましょう。	お礼の手紙	○				
	問五	辞書を使って、いつでも言葉や漢字の使い方や意味を調べることができるようにしましょう。	国語辞典			○		
2	問一	書こうとすることをはっきりさせ、段落を考えて文章を書くことができるようにしましょう。	第3学年及び第4学年 言語活動例イ (調査報告文)	○				
	問二	原稿用紙の使い方を理解し、正しく使うことができるようにしましょう。		○				
3	問い	各段落の内容やつながりを考えながら、事実と意見を区別して文章を読むことができるようにしましょう。	説明的文章		○			

2 調査結果の概要と分析

◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント

全体	◇教科全体の平均正答率は 64.0%である。 ◇「言語についての知識・理解・技能」が 76.9%であった。 ◆評価の観点別の正答率は、「書く能力」が 40.9%、「読む能力」が 27.9%、「書く能力」「読む能力」については課題がみられる。
大問別	1 ◇問一の正答率は、(1)が 99.4%、(2)が 89.9%、(3)が 97.4%であり、漢字を読むことについては、相当数の児童ができています。 ◇問二の正答率は、(1)が 85.1%、(2)が 84.6%、(3)が 72.2%であり、漢字を書くことについては、さらに指導を充実し、確実な定着を図ることが大切である。 ◆問三の正答率は、(1)が 59.1%、(2)が 50.8%、(3)が 42.8%であり、ローマ字を読んだり書いたりすることに課題がみられる。 ○身の回りで使われているローマ字を読んだり、自分の名前や地名をローマ字で書いたりするなど、生活と関連付けて指導すると効果的である。 ◇問四の正答率は 82.0%であり、相手に伝えたいことが分かるように手紙を書くことについては、おおむねできています。 ◇問五の正答率は、87.8%であり、辞書を利用して調べる方法を理解することについては、おおむねできています。
	2 ◆問一の正答率は 19.2%であり、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることは、課題がみられる。 ○相手や目的を明確に意識し、必要なことを調べて取材することが大切である。例えば、本や文章、リーフレットやパンフレット、音声や映像を利用したり、友達や地域の人々などにインタビューやアンケートを行ったりすることなどから、適切な方法を選択し、どのように取材するとより有効かを話し合ってから、取材するようにすることが考えられる。 ◆問二の正答率は 21.6%であり、原稿用紙の使い方を理解し、正しく使うことについては、課題がみられる。 ○正しい原稿用紙の使い方と書かれた文章の読み、読みやすさを実感したり、それをモデルとして文章を書き、書いた後でそのモデルを用いて自分の書いたものを見直したりするなど、自ら正しい原稿用紙の使い方をしようとする意欲を高められるようにすることが大切である。
	3 ◆正答率は 27.9%であり、事実と意見を関係を考え、文章を読むことについては、課題がみられる。 ○文章を読むときに、事実と意見がどのように区別されているのかを把握したり、文章における事実と意見の記述の仕方の違いについて気付いたりできるよう指導することが大切である。

3 調査結果と指導のポイント

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率
1	問一	(1) 虫さされの 薬 をぬる。	くすり			99.4	0.2
		(2) <u>七夕</u> の夜に 星を見る。	たなばた			89.9	2.1
		(3) お昼の <u>放送</u> を聞く。	ほうそう			97.4	1.1
	問二	(1) 木の <u>み</u> を集める。	実			85.1	0.7
		(2) 友だちと外で <u>あそぶ</u> 。	遊			84.6	1.6
		(3) <u>びょうき</u> で学校を休む。	病気			72.2	3.8
	問三	(1) tosyokan	としょかん	とそかん		59.1	18.7
		(2) gakkô	がっこう	がっこ		50.8	22.1
		(2) さいたま	Saitama	Saitana		42.8	17.3
	問四	お礼の手紙を書きます。「本文」に書くこととしてもっともよいものを次の1～4から一つえらんで、□に記号で書きましょう。 1 じこしょうかい 2 手紙を書いた日 3 感謝の言葉 4 あいさつ	3	4		82.0	0.8
	問五	次のア～ウの言葉を国語辞典に出てくる順番にならびかえて、□に記号を書きましょう。 ア ぼうし イ ほうき ウ ポール	イ ↓ ア ↓ ウ			87.8	0.5

(単位：％)

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率
2	問一	調べたことをほうこくする文章を書きます。あとの問いに答えましょう。 調べ方として、もっともよいものを次の1～4から一つえらんで、□に記号で書きましょう。 1 かんさつして調べるときは、短い時間で終わらせるために、言葉だけで記録するようにする。 2 インタビューをして調べるときは、本当のことを聞き出すために、すぐ質問するようにする。 3 本を使って調べるときは、読んで考えたことも合わせて、まとめながらメモをとるようにする。 4 しりょうで調べるときは、いつ、だれが、なんのためにつくったしりょうか調べるようにする。 正答：4		3		19.2	0.9
	問二	つぎの文章は、たろうさんが書いた、調べたことをほうこくする文章の書き出しの部分です。あなたは、この文章を読んで、教科書で勉強した原稿用紙のつかい方に気をつけて、たろうさんにアドバイスをします。アドバイスとしてもっともよいものをあとの1～4から一つえらんで、□に記号で書きましょう。 1 文章のはじまりは、一字下げて書きはじめます。 2 文のおわりは、「です」「ます」にそろえます。 3 句点とかぎは、一つのますの中にいっしょに書きます。 4 会話は、行をかえて書きます。 正答：3		4		21.6	1.0
3		次の文章は、「すがたをかえる大豆」の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。 筆者は、大豆の食べ方が多くくふうされてきた理由をせつめいするために、四つの事実をあげています。どのような事実をあげてせつめいしていますか。あてはまるものを——部ア～キの中からえらんで、□に記号で書きましょう。 正答：ウ エ オ カ		アやイが入る		27.9	1.7

(単位：%)

問三

(1) t o s y o k a n

(2) g a k k ô

(3) さいたま

問三 次の(1)と(2)のローマ字の読みをひらがなで□に書きましょう。
また、(3)の言葉をローマ字でいねいに書きましょう。

分析

平均正答率は「拗音、撥音の読み」が59.1%、「促音、長音の読み」が50.8%、「ローマ字の書き」が42.8%と全体的に低い正答率となっている。「さいたま」をローマ字で書くのに特に難しい文字もないことから、罫線を使って文字の形を整えて書く技能が身に付いていないと思われる。

指導のポイント

1 ローマ字の書き方を教科書で学習した後に、基礎学力定着プログラムのワークシートを用いて、十分な反復練習を行う

ローマ字は児童にとって初めて学習する「新しい文字」である。平仮名や片仮名の書き取り、新出漢字の練習と同じように、何度も繰り返し反復練習を行うことが大切である。本設問に関連して、基礎学力定着プログラムでは以下のように取り上げているので、教科書の例文に追加したり、単元の終わりの小テストとして取り組ませたりするなど、十分に活用されたい。

小学校3年生「ローマ字」ワークシート① **ローマ字の読み、書き** 名前

ローマ字を読んだり書いたりすることができるようにしましょう。

1 次のローマ字を読みましょう。

① Nisi-ku ② Kita-ku ③ Ômiya-ku ④ Minuma-ku ⑤ Tyûô-ku
 ⑥ Sakura-ku ⑦ Urawa-ku ⑧ Minami-ku ⑨ Midori-ku ⑩ Iwatuki-ku

2 次の言葉をローマ字で書きましょう。

① ねこ ② しっぽ ③ おちゃ ④ としょかん ⑤ おとうさん

⑥ おかあさん ⑦ きっぷ ⑧ がっこう ⑨ たっきゅう ⑩ さいたま市

3 自分の名前や学校名をローマ字で書いて、めいしを作ってみましょう。

「じっくり しっかり くり返し」の2ページを参考にしてください。

2の答え

① neko ② sippo ③ ocha ④ tosyokan ⑤ otôsan
 ⑥ okâsan ⑦ kippu ⑧ gakkô ⑨ takkyû ⑩ Saitama-si

小3・4国一

2 パソコンを使ってローマ字入力をしたり、地名などの看板でローマ字が使われているものを探したりする活動を行う

幼児が様々な遊びの中で言語を習得していくように、ローマ字の基本的な知識の習得後、十分な活用を目的とした言語活動を設定することが大切である。児童のパソコンに対する興味・関心は高く、ローマ字入力に活用することにより、知識の定着が有効に図ることができる。またローマ字が最も使われているのは街の地名の看板である。様々な地名を探して読んだり、書き写したりすることによって、拗音や撥音、促音や長音などについても自然と理解を深めることができる。

iii 小学校第5学年【さいたま市学習状況調査】

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…関心・意欲・態度 2…話す・聞く能力 3…書く能力
4…読む能力 5…言語について知識・理解・技能

領域	大問	小問	設問のねらい			評価の観点				
						1	2	3	4	5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	問一	(1)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことができる。	指(さ)す					○
			(2)		漁(りょう)					○
			(3)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	しんせき(親)					○
			(4)		大せつ(切)					○
			(5)		魚いちば(市場)					○
		問二	(1)	文の中における修飾語と被修飾語との関係を理解している。						○
			(2)							○
		問三		熟語の意味を理解し、使うことができる。	救助					○
					岩石					
		問四		辞書を利用して調べる方法を理解している。						○
読むこと	2	問一	物語上の登場人物の役割を理解することができる。							○
		問二	二つの作品から登場人物の性格や場面の情景について叙述をもとに想像することができる。	ア					○	
				イ					○	
		問三	(1)	作品の場面構成を理解している。						○
			(2)	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読んでいる。						○
			(3)	作品を読んで、内容と自分の経験とを結び付けて感想を述べることができる。	分量	○				○
					作品	○				○
					自分の考え	○				○
書くこと	3	問一	手紙の書き出しにおける時候のあいさつについて理解している。						○	
		問二	書こうとすることの中心を明確にして、理由を挙げて文章を書くことができる。						○	
		問三	手紙の後付けにおける基本的な形式（署名と宛名の位置関係）を理解している。						○	
話聞くこと・	4	問一	話の中心に合った質問をすることができる。				○			
		問二	話題と自分の経験とをつなげて感想を述べることができる。	自分のこと等	○	○				
				分量	○	○				

2 調査結果の概要と分析

◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント

全体		◇教科全体の平均正答率は68.3%であり、昨年度の71.2%と比較して2.9ポイント下回った。その要因としては、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が昨年度より下回ったためであると考えられる。 ◇「書くこと」の平均正答率については60.8%であり、昨年度の52.4%と比較して、8.4ポイント上がった。しかし、依然として設定通過率を下回っている。 ◇「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率については、71.1%、72.6%、71.2%と昨年度並みである。 ◆各領域において、目的や条件に応じたり、理由や事例を挙げたりして記述することに課題がある。
領域別	話すこと・聞くこと	◇「話の中心に合った質問をすることができる」を問う問題では、平均正答率が70.8%であった。 ◇条件に合わせて、「話題と自分の経験とをつなげて感想を述べることができる」ことを問う問題では、「自分がしたことや見たこと、聞いたことなどと結び付けて書くこと」「40字以上、60字以内で書くこと」とともに、平均正答率が71.3%であった。 ◆話の中心を考えるために、話の事柄の順序や構成を意識しながら聞くこと、設問の意図をとらえることに課題がみられた。 ○よい聞き手を育てるためには、「自分と比べて思ったことや感じたこと」を述べるだけでなく、「詳しく知るための質問」や「聞いたことと自分が知っていることをつなげた質問」「前の人が言ったことを受ける感想や質問」について意識して質問したり、感想を述べたりするよう指導するとよい。
	書くこと	◆「書こうとすることの中心を明確にして、理由を挙げて文章を書くことができる」を問う問題では、平均正答率が、65.7%であった。 ◆「手紙の後付けにおける基本的な形式（署名と宛名の位置関係）を理解している」を問う問題では、平均正答率が、45.9%であった。誤答を見ると、宛名と自分の名前が逆になってしまっているものがほとんどであった。 ○文章には、礼状や依頼状、意見文、紹介文、記録文、報告文などの様々な様式がある。それぞれの様式を意識し、文章を書くことを指導する必要がある。
	読むこと	◇「二つの作品から登場人物の役割を理解することができる」を問う問題では、平均正答率が、84.4%、78.8%であった。 ◆「作品の場面構成を理解している」を問う問題では、39.6%であった。また、「場面の様子について、登場人物を行動を中心に想像を広げて読んでいる」を問う問題では、平均正答率が、66.7%であった。 ○場面構成を理解する力を高めるために、登場人物の行動を中心に、あらすじをまとめるなどの言語活動を位置付け、学習を行う必要がある。
	の伝統的な言語文化と国語に関する事項	◆漢字の読み書きの設問については、平均正答率が76%前後であったが、昨年度同様「親」を書く設問のみ、正答率が低く66.1%であった。 ◆「文の中における修飾語と被修飾語との関係を理解している」を問う問題では、79.9%と38.0%であった。誤答を見ると、修飾語より前の言葉に係ると考えたり、直後の言葉に係ると考えたりしている児童が多いことがうかがえる。 ○文章の内容を理解するためには、それぞれの文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解することが大切である。修飾と被修飾の関係だけでなく、主語と述語の照応についても「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の中で繰り返し指導していくことが必要である。
継続してみられる課題		◆目的や条件に応じて記述することに課題がみられる。以下の点を指導するとよい。 ・単元の導入を工夫し「何のために（相手意識や目的意識）」を明確にすること ・表現の効果を意識させるために、「どのように（文字数、内容、文末等の条件）」を明確にすること

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 話すこと・聞くこと

大問	問 題	正答	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
	木下さんのクラスでは、毎月テーマを決めて、日直が一分間スピーチをし、クラスの友だちが感想を言ったりしつ問をしたりします。次の文章は、「最近、楽しかったこと」をテーマに木下さんがスピーチをした内容です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。 【木下さんのスピーチの内容】 ぼくが、最近楽しかったことは、弟と遊んだことです。 きのうは、雨で外に出られなかったので弟と家で遊びました。弟は、つみ木遊びがすきなので、つみ木で遊ぶことにしました。 はじめは二人でつんでいたので、弟はつみ木をつむよりも、くずすことが楽しくなったみたいで、ぼくが高くつんだものをくずしてきました。つみ木がくずれると、弟は「キヤハハ」と笑ってよろこんでいました。ぼくは、くずされても負けないようにつみましたが、くずすほうがかんたんなので、どんどんこわされてしまいました。弟のために少しいたのにこわされたから、最初は少し頭にきたけれど、そのうち、なんだか楽しくなってきました。弟とつみ木で遊ぶのもいいなあと思って、とても楽しかったです。また、弟と遊びたいです。					
4	問一 次のうち、木下さんの話したいことに合っているしつ問としてふさわしいものを次の1～4の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。 1 木下さんが持っているつみ木は、何色のつみ木ですか。 2 木下さんがなんだか楽しくなってきたのは、どうしてですか。 3 木下さんは、どうしてつみ木で遊ぶことにしたのですか。 4 木下さんが毎週見ているテレビ番組は、なにかありますか。	2		70.8	6.3	80
	問二 あなたなら、木下さんのスピーチを聞いて、どんな感想を言いますか。次の〈条件〉に合わせて書きましょう。 〈条件〉 ①自分がしたことや見たこと、聞いたことなどと結び付けて書くこと。 ②四十字以上、六十字以内で書くこと。	(内容)		71.3	12.6	70
		(分量)		71.3	12.6	70
	問二について 【正答例】 「私には弟や妹はいませんが、年下の子と遊ぶのが好きです。今度、木下さんの弟と一緒に遊びたいです。」 ①自分のことや知っていることを書いている。→1点配当 ②字数が守られている。※ただし、2・3文字の過不足は可とする。→1点配当					

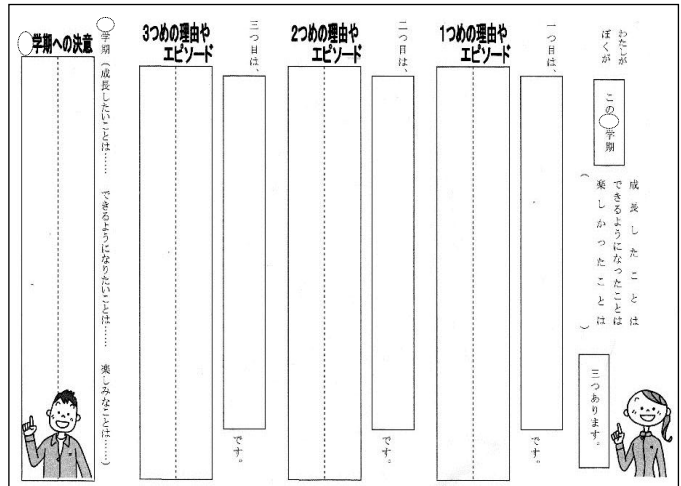
問題 大問4 問1 前頁参照

分析 「話の中心に合った質問をすることができる」を問う問題である。正答率 70.8%であった。誤答を見ると、話の中心を考えるために、話の事柄の順序や構成を意識しながら聞くことができず、選択肢3を選んでしまっているものが多かった。また、設問の意図がとらえられず、「話したいことに合っている質問」という条件から外れて選択肢1を選んでしまっているものも見受けられた。

指導のポイント

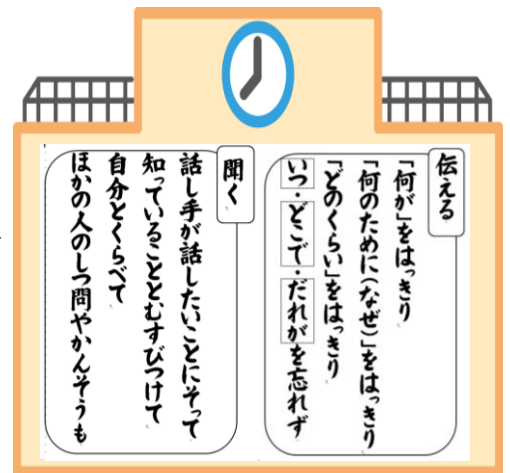
1 話の事柄の順序や構成に関する指導

「話の中心に気を付けて聞く力」を身に付けるためには、話の事柄の順序や構成を意識しながら聞く必要がある。「事柄の順序や構成を意識する力」を高めるには、話の事柄の順序や構成を意識できるようなワークシートを活用し、原稿を作成する経験を繰り返すとよい。その上で、内容を明確にするために、理由や事例を挙げながら、原稿を仕上げていくよう指導していく。このような指導を繰り返すことで「話の中心に気を付けて聞く力」が身に付いていく。



2 質問・感想を述べる指導

よい聞き手を育てるためには「自分と比べて思ったことや感じたこと」を述べるだけでなく、「詳しく知るための質問」や「聞いたことと自分が知っていることをつなげた質問」「前の人が言ったことを受ける感想や質問」について意識して質問したり、感想を述べたりできるような助言をしたり、掲示物を作成したりするなど、指導方法を工夫するとよい。



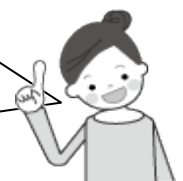
3 音声化に関する指導

スピーチの指導をする際、音声化するときの指導も充実させたい。小学校学習指導要領解説 国語編から、音声化に関する具体的な指導事項を抜粋する。

- ・低学年 : 姿勢、口形、声の大きさや速さ、はっきりした発音
- ・中学年 : 相手を見る、言葉の抑揚や強弱、間の取り方
- ・高学年 : 場に応じた適切な言葉遣い

音声化の仕方を工夫する学習を行うことは、「話すこと・聞くことの力」を向上させるのに、効果的である。

【実感を伴った指導を…】実際に自分がどのように話しているか、ボイスレコーダーや動画機能の付いたデジタルカメラ等の視聴覚機器を使って、客観的に知ることができるようにすることも効果的です。音声化に関する具体的な指導事項を確実に指導することにもつながります。



(2) 書くこと

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
3		山本さんは、四年生の三月にお世話になった、さいたま植物園の中村さんにお礼の手紙を出すことにしました。次は、その下書きの一部です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。						
	問一	山本さんは、本文の[A]の中に、時候のあいさつ（季節の言葉を入れたあいさつ）を書こうとしています。次の〈条件〉のに合わせて書きましょう 〈条件〉 ①「季節となりました。」に続く文になること。 ②五字以上、十二字以内で書くこと。	あたたかな (春の内容が書いてあれば可)	・ 季節違いの言葉 ・ 字数不足		70.7	8.7	80
	問二	山本さんは、手紙の一部に、中村さんから教えてもらったことで学習の成果が出たことを具体的に書こうとしています。[B]の中に入る内容としてもっともふさわしいものを、次の1～4から一つ選んで、その番号を書きましょう。 1 中村さんの植物園の仕事について、わたしたちだけでなく、1年生にも知ってほしいと考えました。 2 植物園の仕事の苦勞がわかり、園長さんの仕事は、わたしが思っていたより大変だと思いました。 3 寒さの中でもからさずに育てることができ、1年生にさくら草のよさを知ってもらうことができました。 4 わたしたちがこれまでに育てたあさがおやヘチマの他にも、植物には多くの種類があることを知りました。	3	1 2 4		65.7	5.0	60
	問三	山本さんは、手紙の後付け（手紙の最後につける内容）を書こうとしています。【手紙の下書き】の[A] [イ]の中には、次の1と2のどちらを書くかといひですか。それぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。 1 あおぞら小学校 五年一組 山本しおり 2 さいたま植物園 中村 友広 様	ア 1 イ 2	ア 2 イ 1		45.9	5.2	60

(単位：%)

問題 大問3 問3 前頁参照

分析 「手紙の後付けにおける基本的な形式（署名と宛名の位置関係）を理解している」を問う問題である。誤答を見ると、宛て名と自分の名前が逆になってしまっているものがほとんどであった。表書きに宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式などを学習している。しかし、正答率は、45.9%と低かった。その理由として、実生活の中で、正しい手紙の書き方を実践する機会がないこと、学校等で書く手紙が、学習した形式と違っていることなどが原因であると考えられる。

指導のポイント

1 文章の様式を明らかにした学習指導

文章には、礼状や依頼状、意見文、紹介文、記録文、報告文などの様々な様式がある。それぞれの様式を意識し、文章を書く必要がある。

- ・誰に伝えるのか（相手意識）
- ・どのような思いや考えを伝えるのか（目的意識）
- ・どのように伝えるのか（方法意識）

が、文章の様式と密接にかかわっている。文章の様式についての知識を習得すること、そして、相手意識、目的意識、方法意識に応じて使い分けをすることの指導が重要である。

2 文章の様式に合わせて書く力を高める指導

（例：手紙を書こう 光村図書 3年上）

○手紙の書き方を知る。

後付け	おわり（結び）	中（本文）	はじめ	構成
・日付 ・名前 ・相手の名前 さいたま植物園 中村 友広 様 平成二十六年四月二十二日 あおぞら小学校五年一組	・終わりのあいさつ 今後とも、どうかよろしくおねがいします。どうぞお体に気をつけておすごしください。	手紙の用件（お礼、お願い、案内など）によって内容が変わるので、モデルを示そう。 この間はおいそがしい中、色々なお話をしてくださり、ありがとうございました。今日は、中村さんにお礼を伝えたくて手紙を書きました。先週の一年生をむかえる会で、わたしが育てたさくら草を一年生にプレゼントしました。中村さんが、育て方を教えてくださいましたので、寒さの中でもからさずに育てることができ、一年生にさくら草のよさを知ってもらえたことができました。	・自己紹介 ・季節のあいさつ さくらのさくあたたかな季節になりました。お元気です。ありがとうございます。総合的な学習の時間にお世話になりました青空小学校五年一組の山本しおりです。	（例）秋に関する言葉集め ・紅葉、すすき（学校や地域で見られる秋の植物） ・つきぬけるような青空（雲や空の様子） ・ひんやりした風、鈴虫の声（五感） 等

書式を意識して書こう。

相手が自分をよく知らない場合は書こう。

実例や自分の思いを交えて具体的に書こう。

季節の言葉集めをしよう。

手紙文例

○様式に合わせて、実用的な文章を書く。

○各教科等の学習において活用する。

（小学生の作文技術 明治図書 井上一郎編著参照）

社会科や総合的な学習の時間で、見学やインタビューの依頼・お礼の手紙を書いてみよう。

(3) 読むこと

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率										
2		川田さんのクラスでは、「白いぼうし」を勉強した後、この話がのっている本「車のいろは空のいろ」の中から、他の話を読んで、「白いぼうし」の話とくらべて、グループごとに登場人物について感想を伝え合うことにしました。川田さんのグループは、「小さなお客さん」という話を選びました。次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。																
	問一	『車のいろは空のいろ』の中には、「白いぼうし」や「小さなお客さん」など、ぜんぶで八つの物語がのっています。それらの物語すべてに、タクシー運転手の松井さんが出てきますが、それはなぜですか。もっともふさわしいものを次の1～4の中から一つ選んで、番号を書きましょう。 1 松井という名前のタクシー運転手が多いから。 2 作者が松井という名前をつけるくせがあるから。 3 松井さんは、すべての物語の中心人物だから。 4 松井という名前は、読者に人気があるから。	3	4		83.7	1.8	85										
	問二 ア	川田さんは、「小さなお客さん」の登場人物について、「白いぼうし」と同じように図で整理しました。下の図を見て、 ア ・ イ に入る言葉を文章中の言葉を使って書きましょう。 <table border="1"><thead><tr><th colspan="2">【登場人物について分かったこと】</th></tr></thead><tbody><tr><td>小さなお客さん</td><td>白いぼうし</td></tr><tr><td>二人の男の子</td><td>ア</td></tr><tr><td>○松井さんのタクシーに乗せてもらい、おろしてもらった。</td><td>○いつの間にかタクシーにのっていて、いつの間にかいなくなった。</td></tr><tr><td>○正体は、イかもしれない。</td><td>○正体は、モンシロチョウかもしれない。</td></tr></tbody></table>	【登場人物について分かったこと】		小さなお客さん	白いぼうし	二人の男の子	ア	○松井さんのタクシーに乗せてもらい、おろしてもらった。	○いつの間にかタクシーにのっていて、いつの間にかいなくなった。	○正体は、 イ かもしれない。	○正体は、モンシロチョウかもしれない。	女の子			84.4	3.6	85
	【登場人物について分かったこと】																	
	小さなお客さん	白いぼうし																
	二人の男の子	ア																
	○松井さんのタクシーに乗せてもらい、おろしてもらった。	○いつの間にかタクシーにのっていて、いつの間にかいなくなった。																
	○正体は、 イ かもしれない。	○正体は、モンシロチョウかもしれない。																
	イ		きつね			78.8	4.8	85										
	問三	川田さんのグループでは、「白いぼうし」と「小さなお客さん」を読みくらべて、感想を伝え合っています。次の（1）から（3）の問いに答えましょう。  わたしは、「白いぼうし」ではわからなかった松井さんのことを知りました。「小さなお客さん」で、ウ　む　かしの松井さんのことが分かっておもしろかったです。・・・。  ぼくは、松井さんはやさしいと思いました。わけは、「白いぼうし」では、車にひかれそうなぼうしを拾おうとしたり、「小さなお客さん」では、エ　たりしたからです。																
(1)	「小さなお客さん」の本文の中から、上の伝え合いの中で高橋さんが言っているウ　　について書かれている場面をさがし、はじめの五文字を書きましょう。	晴れた四月	松井さんは	いなかから		39.6	13.1	55										
(2)	川田さんは、「白いぼうし」と「小さなお客さん」のそれぞれから、松井さんはやさしいと感じました。問2【登場人物について分かったこと】の図の中から、松井さんのやさしさが分かる文を見つけ、上のふきだしの中の エ に入る文を書きましょう。	シーにのせてあげ	二人の男の子をタクシー	手伝いをしてくれた		66.7	6.8	75										
(3)	あなたも感想を伝えます。あなたなら、どのように伝えますか。 <条件> ① 五十字以上、八十字以内で書くこと。 ② 二つの作品について書くこと。 ③ 高橋さん、川田さんとはちがう内容で書くこと。					82.9	8.2	75										
						65.7	8.5	75										
						67.3	8.5	75										
		【正答例】わたしは、「白いぼうし」も、「小さなお客さん」も人間だと思っていた女の子や男の子二人が、チョウチョやきつねかもしれないことがおもしろいと思いました。																

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1	問一	(1) 先生に <u>指</u> されて答えを言う。 (漢字の読み)	さ (指)			73.6	1.5	75
		(2) 海で <u>漁</u> をする。 (漢字の読み)	りょう (漁)			82.9	2.5	75
		(3) <u>しん</u> せきが集まる。 (漢字の書き)	親	新、心、 信		66.1	4.6	60
		(4) 大 <u>せつ</u> な命。 (漢字の書き)	切			88.4	3.3	75
		(5) 魚 <u>いちば</u> を見学に行く。 (漢字の書き)	市場			73.3	4.4	70
	問二	(1) 姉が、台所で <u>おいしそう</u> な ア イ ケーキを <u>や</u> いている。 ウ エ	ウ			79.9	1.6	80
		(2) <u>二頭</u> の 馬が、 <u>風</u> のように ア イ 草原を <u>走</u> る。 ウ エ	エ	イ、ウ		38.0	1.6	70
	問三	似た意味をもつ漢字の組み合わせで できている熟語を次の1～5の中から 二つ選んで、その番号を書きましょう。 1救助 2売買 3登山 4岩石 5愛犬	1 救助			69.0	2.0	80
			4 岩石			77.2	1.9	80
	問四	次の漢字について調べます。読み方も 部首もわかりません。はやくかんたんに 調べる方法として、もっともふさわしい ものを次の1～4の中から選んで、その 番号を書きましょう。 1 漢字辞典の初めのページから順に めくって「可」の字を探す。 2 漢字辞典の部首さくいんのページ を見て、「可」の字を探す。 3 漢字辞典の音訓さくいんのページ を見て、「ア・あ」から順に「可」の 字を探す。 4 漢字辞典の総画さくいんのページ を見て、五画の漢字の中から「可」の 字を探す。	4	2、3		77.8	1.8	85

(単位：%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

問題 大問1 問一（3） 前頁参照

分析 「第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる」を問う問題である。昨年度同様、「親」を書く設問のみ、正答率が低かった。

問題 大問1 問二（2） 前頁参照

分析 「文の中における修飾語と被修飾語との関係を理解している」を問う問題である。誤答を見ると、修飾語がその言葉のすぐ後の名詞に係る問題については正答率が高いが、修飾語が動詞（述語）に係る問題では、修飾語より前の言葉に係ると考えたり、直後の言葉に係ると考えたりしている児童が多いことがうかがえる。

指導のポイント

1 文や文章の中で正しく漢字を使う指導の充実

漢字を正しく読んだり書いたりして、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で正しく使えるようにする必要がある。そのためには、学習した漢字を繰り返し書いて練習するだけでなく、様々な場面で実際に使用することで、確実に習得できるようにすることが大切である。

新出漢字や読みかえの漢字の学習場面で

- ・漢字の成り立ちに着目させる。（象形文字）
- ・漢字の覚え方を考えさせたり紹介させたりする。
- ・似た漢字を取り上げ、意味や使い方の違いを確認する。
- ・言葉集めの活動を取り入れる。

日常の場面で

漢字を意欲的に使っている児童を称賛したり、文づくりを繰り返したりして、漢字を正しく使う利便性や楽しさを味わえるようにする。

同音異義や同訓異義の漢字（光村図書 4年上 まちがいやすい漢字）などの学習場面で

文の中での言葉の意味を考えさせる。

→漢字のもつ意味を考えながら文や文章の中で使う意識をもたせる。

2 国語辞典や漢字辞典を利用する習慣づくり

辞書利用については、漢字を正しく読んだり書いたりするため、また語彙を増やすために、学習する第3学年から意図的・計画的に指導し、積極的に利用して調べさせるようにしたい。また、日常的に活用するために、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような環境をつくっておくことが大切である。

国語科の学習の中で

- ・調べた言葉に付せんを貼る。
- ・一定の時間内で速く引く競争をする。等

各教科等の調べ学習や日常生活の中で

自分の読み書きのできない言葉や難語句に出合う機会をとらせ、辞書を活用する。

3 主語と述語、修飾語と被修飾語の関係の指導

文章の内容を理解するためには、それぞれの文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解することが大切である。主語と述語の照応だけでなく、修飾語と被修飾語の関係についても「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の中で繰り返し指導していくことが必要である。

（例）「書くこと」の学習の中で

主語 述語に係る修飾語（どんな言葉が入るか考えてみよう） 述語

姉は 友達から ハンカチを 一枚 パーティーで あわてて 借りた。
（誰から） （何を） （どれ位） （どこで） （どんな風に）

iv 中学校第1学年【さいたま市学習状況調査】

1 設問のねらいと評価

評価の観点 1…関心・意欲・態度 2…話す・聞く能力 3…書く能力
4…読む能力 5…言語について知識・理解・技能

領域	大問	小問	設問のねらい		評価の観点						
					1	2	3	4	5		
国語の伝統的な言語文化と事項	1	一	(1)	みちびく					○		
			(2)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことができる。	かさねる					○	
			(3)	せきにん						○	
		二	(1)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	協力					○	
			(2)		相談						○
			(3)		焼く						○
こ読む	2		一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換えることができる。	ひとりぼっち	○			○	○		
				あなをほって	○			○	○		
こ書く	3		文と文との意味のつながりを理解し、文の理論を考えて書くことができる。		○		○		○		
こ読む	4		目的に応じて、文章の内容を的確にとらえることができる。		○			○			
書くこと	5		文章全体の役割を理解し、適切な指示語や接続語を使うことができる。	ア	○		○		○		
				イ	○		○		○		
				ウ	○		○		○		
に化関する事項 伝統的な言語文化	6		文の中における主語と述語の関係を理解している。	ア					○		
				イ						○	
こ書く	7		自分の考えを明確にするために、文章全体の構成の効果を考えることができる。		○		○				
話すこと・聞くこと	8		自分の考えが分かるように筋道を立てて、適切な言葉遣い等で話すことができる。		○	○					
					○	○					
こ書く	9		表現の効果を考えて、書き換えることができる。		○		○				

2 調査結果の概要と分析

◇：良好な結果がみられた点 ◆：課題がみられた点 ○：指導のポイント

全体	◇全体の正答率は82.3%であった。小学校第6学年までに学習した内容については、全体的に満足できる状況にある。 ◇「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率については、88.5%、78.7%、65.8%、88.9%と設定通過率を超えている。
領域別	話すこと・聞くこと ◇「自分の考えが分かるように筋道を立てて、適切な言葉遣い等で話すことができる」を問う問題では、平均正答率が85.0%、92.1%であった。 ○「話すこと」の力を付けていくためには、取り上げる事柄について十分調べたり考えたりすることを通して理解を深められるようにするとともに、話の構成や内容、考えたことや伝えたいこと、言葉遣いについてより具体的に指導することが重要である。「聞くこと」の力を付けていくためには、話し手の意図を考えながら、話の中心、構成や内容上の工夫及び適切な言葉遣いに注意して聞くことを指導していくことが重要である。
	書くこと ◇「文と文との意味のつながりを理解し、文の理論を考えて書くことができる」を問う問題では、平均正答率が70.8%であった。 ◇「自分の考えを明確にするために、文章全体の構成の効果を考えることができる」を問う問題では、平均正答率が82.7%であった。 ◆「表現の効果を考えて、書き換えることができる」を問う問題では、平均正答率が49.9%であった。 ○自分の考えが明確になっているかを読み手の立場から客観的に評価することが重要である。そのためには、書いた文章を相手意識、目的意識に照らし合わせ、自己評価、相互評価をする場面を積極的に位置付けることが重要である。
	読むこと ◇「目的に応じて、文章の内容を的確にとらえることができる」を問う問題では、平均正答率が93.7%であった。 ◆「一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換えることができる」を問う問題では、43.0%であった。 ○登場人物の行動に着目して読む力は、内容を理解するために欠かせない力である。学年の段階に応じて指導する必要がある。 ○文章の内容を的確に押さえながら読むには、目的や意図に応じて中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係や事実と感想、意見などとの関係に着目できるようにすることが重要である。
	の伝統的な言語文化と国語に関する事項 ◇漢字の読み書きの設問については、平均正答率が91.4%であった。 ◇「文の中における主語と述語との関係を理解している」を問う問題では、86.3%と76.6%であった。 ○単文や重文、複文など、様々な文の主語と述語との関係を押さえ、文の意味を的確に理解することが重要である。そのためには、一つの主語が複数の述語に係る文、複数の主語と複数の述語を含む文などを取り上げ、それらの主語と述語との関係を明確に押さえることができるように指導することが大切である。その際、長い文を読むときには、主語と述語との関係に注意すると意味を正確に理解することにつながるということを指導することが必要である。
結果からみられる課題	◆文と文のつながりや表現の効果を考えることに課題がみられる。以下の点を指導するとよい。 - 書いた文章を相手意識、目的意識に照らし合わせ、自己評価、相互評価をする場面を積極的に位置付ける。 - 多様な文章に表れる様々な表現の工夫に気付いたり、自分の表現に活用したりするように、繰り返し指導する。

3 領域別調査結果の指導のポイント

(1) 話すこと・聞くこと

大問	問 題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
8	自分の一年間の目標を、学級でスピーチすることになりました。聞き手に分かりやすい話し方として <u>ふさわしいもの</u> を次の1～5の中から二つ選んで、その番号を書きましょう。 1 聞き手が、話の内容に集中できるように、間をおかずに続けて話す。 2 話が伝わっているかどうか、聞き手の表情を確かめながら話す。 3 聞き手に内容がよく伝わるように、最初から最後まで同じ調子で話す。 4 聞き手に聞こえるように、場に応じた声の大きさではっきり話す。 5 聞き手にたくさんのことを伝えたいので、できる限り早口で話す。	2	3 1		85.0	1.3	80
		4			92.1	1.3	80

(単位%)

話すこと・聞くこと

問題 大問8

分析 聞き手に分かりやすい話し方として、効果的なものを選択する問題で、平成19年度全国学力・学習状況調査A問題7で出題された問題である。正答率が、85.0%、92.1%とおおむねの生徒が理解できていて、小学校からの学習が定着していると考えられる。

指導のポイント

「話すこと」の力を付けていくためには、取り上げる事柄について十分調べたり考えたりすることを通して理解を深められるようにするとともに、話の構成や内容、考えたことや伝えたいこと、言葉遣いについてより具体的に指導することが重要である。「聞くこと」の力を付けていくためには、話し手の意図を考えながら、話の中心、構成や内容上の工夫及び適切な言葉遣いに注意して聞くことを指導していくことが重要である。

これらの力が、中学校の第1学年の目標へとつながっていく。

〔「小学校第5学年及び第6学年」と「中学校第1学年」の話すこと・聞くことの目標〕

(小) 小学校第5学年及び第6学年	(中) 第1学年
目標や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	目的や場面に応じ、日常生活に係ること等について構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。

1 スピーチをする機会を設定し、話すこと・聞くことの力を付ける

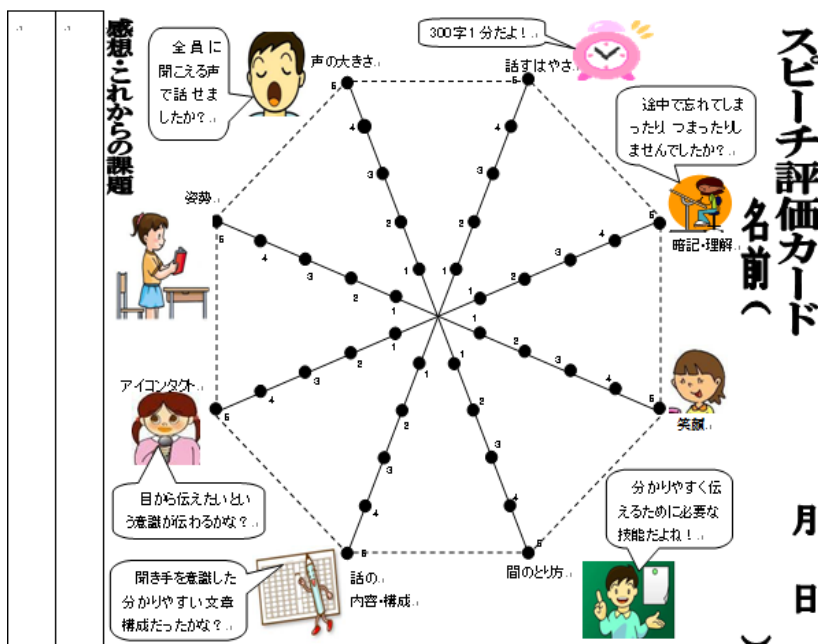
スピーチの指導をする際には、聞き手の反応を意識して話すようにさせることが必要である。そのためには、話す内容だけでなく、話すときの工夫も原稿に書き込ませるなどの指導が大切である。

スピーチ評価

カードの活用

レーダーチャートで5段階評価をすることで視覚的に客観視できる。

項目例「話すはやさ」「暗記・理解」「笑顔」「間の取り方」「話の内容・構成」「アイコンタクト」「姿勢」「声の大きさ」等、児童生徒の実態に合わせて設定する。



2 全国学力・学習状況調査を活用し、話すこと・聞くことのポイントを確認する

(1) 表現の工夫とその効果 (平成25年度A問題3参照)

表現の工夫		聞き手への効果
人や物、出来事を、ほかの何かにたとえる	→	その場の様子が想像しやすくなる
伝えたい内容を短い言葉で区切って並べる	→	伝えたい思いを明確にできる
同じ言葉を何度もくり返して使う	→	伝えたいことを強調できる
動きや音声を言葉で表す	→	その場の様子が分かりやすくなる
言葉の順番をくふうする	→	伝えたいことを印象付けられる

(2) 質問の種類 (平成22年度B問題3参照)

質問の種類①

話し手が調べたことの中で最も伝えなかった内容を引き出そうとする質問

質問の種類②

話し手が発表したことに対する自分の理解が正しいかを確かめようとする質問

質問の種類③

話し手が材料を集めたり整理したりしたときの工夫を聞き出そうとする質問

質問の種類④

話し手が調べたことと、自分が調べたことを関連付けようとする質問

3 中学校の授業や生活を意識し、日々の授業を行う

中学校での授業の中での「リスニング」例

教師の範読やCDを聞く → メモを取る → 自己評価、相互評価をする

中学校の生活の中で

入学後、先輩や教員を始め、敬語を使う機会が増える。抵抗なく正しい言葉遣いができるよう、小学校高学年から大人や教師との話し方についても指導していく必要がある。



(2) 書くこと

大問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
3	石橋さんは、体育係です。担任の先生から次のような「〈体育祭をむかえるにあたって〉～昨年度の反省から～」と書かれた【メモ】をわたされました。この【メモ】をもとに、学級の【係コーナー】に呼びかけの文を書きました。「体育係からのお知らせ」の②アの中に入るふさわしい内容を①の書き方と同じように書きましょう。	い 開 会 式 の 集 合 に お く れ な い よ う に	開 会 式 の 集 合 時 刻 に お く れ た 人 が い た の で		70.8	1.1	60
5	中西さんが放送委員としての一年間の目標について書いた文です。ア イ ウの中に入るふさわしい言葉を、あとの1～5の中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。 1 以上のように 2 その理由は 3 そのために 4 反対に 5 もう一つは	ア 3			87.6	0.4	70
		イ 5			86.2	0.4	70
		ウ 1			94.9	0.5	70
7	原田さんの妹は、小学校6年生で、図書委員長です。妹は、学校図書館の利用について意見分を書くことにし、4枚のカードに、意見文を書く内容をまとめました。原田さんは、①「問題の提示」、②「体験をもとにした事実と意見」、③「調査をもとにした事実と意見」、④「まとめ」の順に意見文を書くと言いとアドバイスをしました。この順になるようにア～エのカードを並べかえ、その順に記号を書きましよう。 (完答)	イ ↓ ア ↓ エ ↓ ウ			82.7	0.8	70
9	新聞委員の北川さんが「新入生歓迎会」の様子を伝えた、学校新聞の記事の下書きの一部です。——部を「新入生が」を主語にして書きかえます。あとの□の中に入るふさわしい内容を、意味を変えないようにして書きましよう。	内 さ れ て	生 徒 会 の 人 た ち に 案		49.9	4.4	60

(単位%)

書くこと

問題 大問 3 大問 9 前頁参照

分析 文と文のつながりや表現の効果を考えて、文章を書き換える問題である。大問3の設定通過率は大幅に超えた。誤答としては、「～遅れたので」や「～遅れたため」というのが多かった。大問9の主語を変えた文章の構成は、設定通過率を10%ほど下回った。誤答をみると、主語が代わったことで、読み手の立場から文章を客観的に評価できていないものが多かった。

指導のポイント

自分の考えが明確になっているかを読み手の立場から客観的に評価することが重要である。そのためには、書いた文章を相手意識、目的意識に照らし合わせ、自己評価、相互評価をする場面を積極的に位置付けることが重要である。

問題 大問 5 前頁参照

分析 「文章全体の役割を理解し、適切な指示語や接続語を使うことができる」を問う問題である。3問とも正答率が、設定通過率を大幅に超えた。

指導のポイント

指示語や接続語は、文や文章の構成にかかわる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしている。文章を書く様々な機会をとらえて、文脈に沿った指示語や接続語の役割を理解し、使うことの指導を工夫することが大切である。

順接	逆説	並列	添加	選択	説明
その事柄が原因となり、当然の結果が後にくる。	前の事柄と対立するような事柄が後にくる。	二つ以上の事柄を対等に並べる。	前の事柄に新しい事柄を付け加える。	前の事柄と後の事柄のどちらかを選ぶ。	理由や説明などを補う。
・だから ・すると ・それで ・したがって ・ゆえに など	・しかし ・ところが ・でも ・けれど ・だが など	・また ・そして ・それから ・ならびに ・および など	・また ・そのうえ ・しかも ・さらに ・なお など	・それとも ・あるいは ・もしくは ・ないしは ・かつ など	・なぜなら ・つまり ・すなわち ・例えば ・言わば など

問題 大問 7 前頁参照

分析 「自分の考えを明確にするために、文章全体の構成の効果を考えることができている」を問う問題である。設定通過率を10%ほど上回った。事実と感想、意見を区別したり、文末の表現を工夫したりし、文章全体の構成を考えることができている。

指導のポイント

文章の構成には、様々なものがある。目的や意図に応じて、自分の考え及び相手の理解が明確になるような構成で文章を書いていくのか、指導する必要がある。

意見文の構成例① ・考えたことや調べようとする課題 ・調査をもとにした事実 ・自分の意見や提案 	意見文の構成例② ・自分の意見や提案 ・体験をもとにした事実 ・自分の意見や提案 	意見文の構成例③ ・問題の提示 ・体験をもとにした事実 ・調査をもとにした事実 ・自分の意見や提案 	意見文の構成例④ ・問題の提示 ・調査をもとにした事実 ・自分の意見や提案 ・自分の意見や提案に対する反対の意見 ・反対の意見に対する自分の意見や提案 ・自分の意見や提案 
--	---	---	---

(3) 読むこと

大問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
2	次の□の中の一——部には、二つの内容が含まれています。「ごん」を主語にして、二つの文に分けて書きましょう。 ごんはひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。	ひとりぼっち	・句点忘れ ・文末がない		43.0	1.3	60
		あなをほって	・文末がない ・次の1文を書いている		60.7	1.5	60
4	次の文章は、ケナガマンモスについて書かれた説明文の終わりの段落です。この段落の内容をまとめたものとして、もっともふさわしいものをあとの1～4の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。 このように、北海道から発見されるケナガマンモスは、地球上でもっとも南にいたケナガマンモスたちの一例であることから、かれらが気候変化にともなってどのように移動してきたかが、非常によくわかります。今、地球は、地球温暖化という大きな問題をかかえています。気候の変化が野生の動物たちのどのような影響をあたえるのかを考えると、日本のケナガマンモスたちの資料は、重要な意味を持っているといえます。						
	1 北海道から発見されるケナガマンモスは、気候の変化とは全く関係がないといえる。 2 気候の変化が野生動物に影響をあたえた例として、ケナガマンモスの資料は重要だ。 3 地球温暖化の問題を考えると、ケナガマンモスの資料は重要ではなくなっている。 4 日本のケナガマンモスの発見は、マンモスの進化を研究するのに重要な意味がある。	2	3		93.7	0.4	80

読むこと

問題 大問 2 前頁参照

分析 「一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換えることができる」を問う問題である。設定通過率よりも正答率が大きく下回った。登場人物の行動に着目しながら、読むことに課題があると考えられる。

指導のポイント

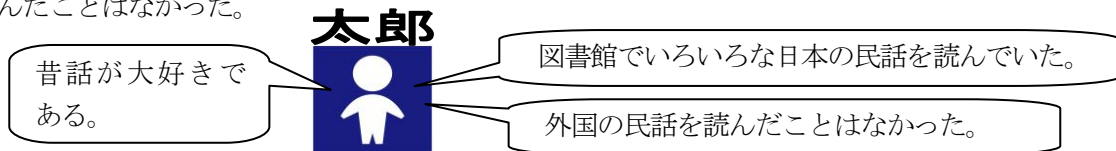
学習指導要領解説国語編に書かれている〔読むこと（小）第1学年及び第2学年から、（中）第1学年への「文学的な文章の解釈」〕は、以下の通りである。

（小）第1学年及び第2学年	（小）第3学年及び第4学年	（小）第5学年及び第6学年	（中）第1学年
場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について、自分の考えをまとめること	場面の展開や登場人物などの描写に着目して読み、内容の理解に役立てること

登場人物の行動に着目して読む力は、内容を理解するために欠かせない力である。学年の段階に応じて指導する必要がある。

【指導例】 登場人物について分かることを図にまとめる。

例文…太郎は昔の話が大好きで、図書館でいろいろな日本の民話を読んでいたけれど、外国の民話を読んだことはなかった。



問題 大問 4 前頁参照

分析 「目的に応じて、文章の内容を的確にとらえることができる」を問う問題であった。ほとんどの生徒が、最後の一文を手掛かりに要旨をとらえることができていると考えられる。

指導のポイント

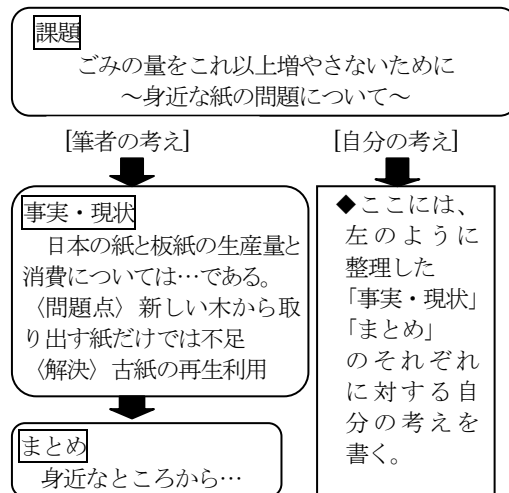
文章の内容を的確に押さえながら読むには、目的や意図に応じて中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係や事実と感想、意見などとの関係に着目できるようにすることが重要である。例えば、注目すべき語や文をキーワードやキーセンテンスとして探させたり、内容を大まかに整理するために小見出しを付けながら読ませたりするなど、目的や意図に応じて読みの指導をしていくことが大切である。

【指導例】

本の内容や筆者の意図を簡潔に押さえ、整理する。

- (1) 目的や課題を設定し、関係のある本や文章を探して読む。
- (2) 本や文章の内容をとらえて、短い言葉で要点をまとめる。
- (3) 文章全体の展開や筆者の考えをとらえて、ノートに整理する。また、「事実・現状」と「まとめ」については、それらに対する自分の考えを書く。（右図参照）
- (4) 本や文章を読んで考えたことを発表し合う。

参考：国立教育政策研究所「平成21年度全国学力・学習状況調査 小学校の結果を踏まえた授業アイディア例」



(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

大問	小問	問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1	問一	(1) チームを勝利に <u>導</u> く。 (漢字の読み)	みちび	きず		97.1	0.7	90
		(2) 話し合いを <u>重</u> ねる。 (漢字の読み)	かさ			98.0	0.5	90
		(3) <u>責</u> 任をもつ。 (漢字の読み)	せきにん			98.6	0.8	90
	問二	(1) みんなで <u>き</u> ょうりよくする。 (漢字の書き)	協力			94.5	0.8	70
		(2) 先生に <u>そ</u> うだんする。 (漢字の書き)	相談	想談 相断		76.7	2.9	70
		(3) 魚を <u>や</u> く。 (漢字の書き)	焼	燃		83.7	1.9	70
6	長い文を読むときは、次の【例】のように、主語と述語との関係に注意すると意味が分かりやすくなります。□の中の文で、主語と示す～～～部ア・イの述語にあたるものを、——部1～4の中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。 【例】 (主語) (述語) みんなが植えた木は、<u>どんどん育</u>った。 わたしは、アサガオの青い<u>花</u>が次から次へと<u>さい</u>て、やがて黒い色を<u>した</u>たくさんのア イ 1 2 種が<u>できる</u>までの様子を毎日<u>観</u>察した。 3 4							
		わたしは →	4			86.3	1.4	70
		花が →	1			76.6	1.4	70

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

問題 大問1 問一 前頁参照

分析 「当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことができる」を問う問題である。おおむねの生徒が理解していると考えられる。

問題 大問1 問二 前頁参照

分析 「当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる」を問う問題である。(2)「相談」の正答率が他の2問よりも低い、全体的にはおおむねの生徒が理解できていると考えられる。

問題 大問6 前頁参照

分析 「文の中における主語と述語の関係を理解している」を問う問題である。イの「花が」に係る述語を問う問題の正答率が若干低い。複文を読む際に、特に文中にある主語と述語の理解が不十分であることがうかがえる。

指導のポイント

1 当該学年までに配当されている漢字を確実に習得する

学年別漢字配当表に示されている漢字を、それぞれの学年において正しく読んだり、書いたりして、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で使えるようにすることが重要である。そのためには、学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で実際に使用することで、確実に習得できるように指導することが大切である。その際、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音意義や同訓意義の漢字に注意して使ったりするように指導することも大切である。

2 国語辞典や漢字辞典を活用する習慣を身に付ける

漢字を習得し、語彙を拡充するためには、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることが重要である。辞書利用について学習する小学校第3学年から意図的・計画的に指導する必要がある。辞書を日常的に活用するために、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくっておくことが大切である。また、国語科の学習のみならず、各教科等の調べ学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用し、語彙を広げ、漢字を正しく表記できるように指導することが大切である。

3 主語と述語の関係を押さえる

単文や重文、複文など、様々な文の主語と述語との関係を押さえ、文の意味を的確に理解することが重要である。そのためには、一つの主語が複数の述語に係る文、複数の主語と複数の述語を含む文などを取り上げ、それらの主語と述語との関係を明確に押さえることができるように指導することが大切である。その際、主語と述語との関係を明確にすることが文の意味を正確に理解することにつながるということを意識できるように指導することが必要である。